



## 最優秀賞

### 「おじいちゃんとおばあちゃんの笑顔」

島根県 園山 紗羽さん 小学6年生

私のおじいちゃんは、がんをわずらっています。治りょうのために強い薬を飲んで苦しさと闘っています。おばあちゃんは車いすに乗っています。車いすだと生活するのも大変なのに、おばあちゃんはヘルパーさんに手伝ってもらって、家事もしています。

おじいちゃん達の家と私の家は、福岡と島根という遠い距離にあります。なので、二人と会うのも、年に数回です。

私がおじいちゃん達といられる時間は限られています。おじいちゃん、おばあちゃんは、食事の時も、買い物の時も、家で話している時も、いつも笑って接してくれます。嬉しそうに、私の話を聞いてくれます。元気ではないはずの二人が私達と過ごす時間を、大切にしてくれているんだと強く感じます。体がきついのに、色んな所に

連れて行ってくれます。おじいちゃんは、食べきれないほどの果物を買って来てくれます。おばあちゃんは、いつもめずらしい本を用意してくれます。

そんな二人に私ができること。二人で一生懸命生活して、きっと大変なことがいっぱいあるのに、私達を応援してくれる優しいおじいちゃん、おばあちゃんに私ができること。それは、私が楽しく笑って話をする事だと思います。友達や勉強、学校のこと。今、頑張っている陸上のこと。日々の生活のことなど、少しでも多くのことを話してあげたいです。私は、二人が「楽しい」「うれしい」と思えることを増やしていきます。なぜなら、おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔をたくさん見て、私も一緒に笑える時間を増やしたいからです。

#### 審査員のコメント

●がんをわずらっているおじいちゃん、車いすに乗りながらも、家事やおじいちゃんの看病をしているおばあちゃん。元気ではないはずの二人がいつも笑顔で接してくれていることに対する筆者の感嘆と感動と敬意の念が読む者の心にじんわりしみこみ、目頭が熱くなる素晴らしい文章です。(内田先生) ●祖父母の孫に対する愛情と、孫からの祖父母に対する感謝の気持ちが説得力を持って伝わってくる。(坂元先生)

## 優秀賞 「私の大事なゆめちゃん」

埼玉県 青木 乃愛さん 小学6年生

私には年の離れた生後7か月のいとこがいます。名前はゆめちゃんといいます。ゆめちゃんの家族は群馬県に住んでいます。私は、この夏休みにゆめちゃんのお世話をしに群馬へ行きました。おむつを替えたり、寝かしつけたり、ミルクをあげたりしました。特に、泣き止ませるのがすごく大変で、ずっとゆりかごの歌を歌ってあげていました。なかなか泣き止まないこともあってお母さんの大変さが身にしみてわかりました。でも、笑っているところを見ていると私もつい笑みがこぼれて嬉しくなります。それを見て私が赤ちゃん

の時もお母さんやお父さん、それからお兄ちゃんやおばあちゃんに、ゆめちゃんと同じように周りのみんなから愛されていたんだと思います。口には出していなくてもみんながゆめちゃんを見ている雰囲気からそう感じました。家族のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。私が家族に可愛がられてきたように、私は、ゆめちゃんをいっぱい可愛がってあげたいと思います。ゆめちゃんが大きくなって私と同じ感謝の気持ちをもってくれたら嬉しいです。

#### 審査員のコメント

●最近はいとこの数も減ってきました。それもあってなかなか、乳幼児と出会う場面が少ないのです。そうした中、赤ちゃんを育てる大変さと喜びがうまく表現されています。赤ちゃんの笑顔が皆さんを幸せにするのです。(明石先生) ●お母さんの大変さが身にしみてわかったってすごいことだよ。ゆめちゃんをいっぱい可愛がってあげてね。(松田先生)

## 優秀賞 「お父さんは何でも知っている」

広島県 大久保 果澄さん 小学2年生

私のお父さんはいつも忙しくてなかなかお休みがありません。だから、私はお母さんと出かけることが多いです。でも、お父さんは私たちの出かけた先でおきたことやどうだったかよく知っています。まるで一緒に行ったのかと思うほどです。

どうして知っているかという理由は二つあります。一つは、お母さんがお父さんにメールや写真でその都度報告しているからです。お母さんは「お父さんだっけ行きたかったかもしれないでしょ、だから教えてあげなくちゃ。」とか「お父さんががんばって働いてくれているからこう

やって出かけられるんだよ。」とよく言っています。

もう一つは、私がお父さんにいっぱい話して教えてあげるからです。我が家は夕ご飯はできるだけ家族そろって食べます。その時にお父さんにいっぱい話します。お母さんが「ごはんをちゃんと食べなさい。」と怒るくらいです。一緒にお風呂に入ったときにもたくさん話します。

だから、お父さんは仕事で行けなかった時のこともよく知っています。でも、やっぱり一緒に出かけたいなあと思ってしまう。

### 審査員のコメント

●ご家族でいつも会話していることが伝わってくる心温まる作文ですね。お父さんは一緒に行かないのになぜ自分たちの外出を知っているのかという問いに、「それはお母さんがメールで報告しているから」と理由を述べる形式「結論先行型作文」で文章が構成されていますので、とても説得力がありますね。(内田先生) ●家族のコミュニケーションが非常に豊かなことを感じさせる。「まるで一緒に行ったかと思うほど」という表現は印象的である。(坂元先生)

## 優秀賞 「はたらくぼくのおじいちゃん」

岡山県 岸本 琥太郎さん 小学3年生

ぼくは、おじいちゃんが好きです。ぼくのおじいちゃん、大工さんです。四十三年間ずっと大工さんをしています。家を建てたり、しゅう理をしたり、お客さんと打ち合わせをしたりしています。

そして、お休みの日には、ぼくのほしい物を何でも作ってくれます。おまつりで見たおみこしやだんじりがほしいと言うと小さいおみこしやだんじりを作ってくれました。竹馬の練習をしたいと言うと竹を切ってきて、竹馬も作ってくれました。ぼくの家には、おじいちゃんが作ってくれた宝物がいっぱいあります。

おじいちゃんは、ぼくの家も建ててくれました。おかあさんがせつ計をして、おじいちゃんとおじさんが建てた、家族で力を合わせて作った家です。おじいちゃんは、ずっとそれがゆめでした。ぼくは、家族で作った家がとても気に入っています。家ができてから、毎日おじいちゃんの仕事を見に行っていて、一生けんめい家を作っているおじいちゃんはとてもかっこいいと思いました。いつかぼくが大人になって、家を建てる時には、おじいちゃんに建ててほしいと思っています。だから、その時まで元氣なおじいちゃんにいてほしいです。

### 審査員のコメント

●“宝物”と“かっこいい”という子供らしい表現が、長年の大工さんとしてのおじいちゃんへの深い尊敬と「元氣のもと」を、愛らしく、しっかり伝えてくれる作品です。(橋本先生) ●家族が作った物を使い、家族が作った家に住むことは家族に対する思いを強めるであろう。格別に幸福な家族の様子が浮かび上がってくる。(坂元先生)



## 優秀賞 「私の元気のもと」

愛媛県 坂本 雪乃さん 小学3年生

「たくはいびんです。」私は千葉の祖父母から届く野さいなどのおくりものをいつもとても楽しみにしている。はこをあけるとぷーんと自ぜんのおいがして千葉の畑を思いだす。私の祖父母はとてもはたらき者だ。毎日5時前には起きてニホンミツバチや畑の野さいたちの世話をする。私も夏休みに一度お手伝いをしたことがあるが早起きもつらかったし、汗もいっぱいかいて、蚊にもさされてとてもつかれて大へんだった。こんなに大へんなのに毎日まいにち畑仕事をしている祖

父母は本当にすごいと思う。野さいを育てるだけでなく、とれたブルーベリーやいちごをジャムにしたり、梅干しをつくったりハチのすからはちみつをとったり大豆からみそを作ったり。祖父母の手は、たいがいのものは作ってしまう、まほうの手だ。なかなかすぐに会えないけれど、時々届く野さいたちが私に元気をくれる。来年はもう少しお手伝いできるかな。おじいちゃん、おばあちゃんずっとずっと元気でいてね。

### 審査員のコメント

- 「宅配便です！」から始まり、ぷーんと自然の匂い、そして千葉の畑へと。自らの体験も通して祖父母への尊敬と感謝の気持ちが見事に流れ、タイトルも抜群です。(橋本先生)
- おじいちゃん、おばあちゃんが元気のもとをくれるんだね。たくさんお手伝いして、魔法の手を受け継いでね!(松田先生)

## 優秀賞 「お母さんが、ガンになって」

広島県 下村 優羽さん 小学2年生

お母さんが口の中のめずらしいガンになりました。みんなでごはんをたべに行った時にお父さんが話してくれました。話ができなくなるかもしれないし、ごはんがたべれなくなるかもしれない、たいへんなびょう気だと聞きとてもかなしい気持ちになりました。でも遠くのびょういんでお母さんは手じゅつをがんばるから、みんなでがんばろうということになりました。わたしとおとうとは、おじいちゃんとおばあちゃんのお家で少しの間、

べつの小学校に行きました。さみしかったけど、お母さんががんばっていたから、わたしと弟もがんばりました。おじいちゃんもおばあちゃんも新しいお友達も先生もいとこも、みんなとてもやさしくしてくれて、うれしかったです。お母さんもだいぶ元気になりました。お母さんと毎日いっしょにいれることがとてもうれしいです。家ぞくみんなですっとなかよくみんな元気に生活していきたいです。

### 審査員のコメント

- 母親のがんを契機に家族が離ればなれになりつらい思いをしたはずですが、それにもかかわらず、祖父と祖母の家で新しい生活を始めて、多くの人の励ましで元気に過ごしている姿が書かれています。(明石先生)
- お母さんと一緒にあなたもがんばったんだね。家族と一緒に過ごせるって、本当にうれしいことですね。(松田先生)